

今日の移動音楽教室・群馬交響楽団の演奏を聴いて・・・

群馬交響楽団 移動音楽教室



1. 自己評価をしよう

① 興味を持って聴くことができた A B C D

② マナーを守って鑑賞できた A B C D

2. 感じたこと、思ったこと、気づいたこと、疑問などを書こう



令和7（2025）年7月9日（水）

11：00開演 12：00終演予定

松井田文化会館

安中市立松井田中学校

（ ）年（ ）組 名前（ ）

プログラム

1 《夏の思い出》の主題による楽器紹介曲（17分）

（小田実結子編曲）

2 組曲《ホルベアの時代より》からプレリュード（3分）

（エドヴァルド・グリーグ作曲）

3 ハンガリー舞曲 第5番（3分）

（ヨハネス・ブラームス作曲）

4 トリッチ・トラッチ・ポルカ（3分）

（ヨハン・シュトラウスⅡ作曲）

5 交響曲 第9番 《新世界より》から第4楽章（12分）

（アントニン・ドヴォルザーク作曲）

【曲目解説】

1 《夏の思い出》の主題による楽器紹介曲

群馬県北東部の自然豊かな高原、尾瀬の風景を描いた《夏の思い出》をテーマに、群馬に縁のある作詞・作曲家の曲や、有名なクラシック音楽のメロディーも織り交ぜながら楽器を紹介していきます。どんな曲が登場するのか、是非耳を澄ませてみてください。木管楽器、弦楽器、金管楽器、打楽器の順に、個々の楽器の音色とセクションのアンサンブルをお聴きいただけます。また《夏の思い出》がワルツになったり、行進曲になったりするのもお楽しみください。みなさんには手拍子で参加いただけます。（小田 実結子）

2 組曲《ホルベアの時代より》からプレリュード

ノルウェーの国民楽派を代表するグリーグ（1843-1907）は、1864年以降、祖国の自然、民衆、歴史と結びついた民族主義的な音楽へと方向転換しました。彼は1875年の書簡で「ノルウェーの自然、民衆の生活、歴史、民衆の詩を描くこと」が自らの仕事だと述べています。17世紀末に生まれたホルベア男爵（1684-1754）は、「北欧のモリエール」と呼ばれた北欧を代表する劇作家でした。彼の生誕200年を記念して、1884年8月にまずピアノ曲《ベルボアの時代》作品40が作曲され、1885年に弦楽用に編曲されています。副題に「古い様式による組曲」とあるように、ホルベアが生きた時代、すなわちバロック音楽の時代（17-18世紀前半）に流行していた舞曲をまえています。〈プレリュード〉（アレグロ・ヴァヴオーチェ）は、せわしい動きの中にも気品が感じられる佳曲です。二部形式。

3 ハンガリー舞曲 第5番

19世紀の多くの作曲家が「ハンガリー風」と呼ばれる作品を残していますが、それらの音楽は、独特の音階やテンポの緩急、装飾音などに特徴があるロマ（ジプシー）風の音楽でした。当時、ロマ風の音楽とハンガリーの音楽は同じであるとみなされていたのです。ブラームス（1833-1897）は、《ハンガリー舞曲》と題された作品を、1860-70年代にピアノ連弾曲として21曲書いています。なかでも第5番は、「ブラームスのハンガリー舞曲」といえば、この曲が思い出されるほど有名な曲です。これらの作品は、当時の異国趣味の流行に合わせて大変な評判となり、さまざまな編曲が生まれました。ただしこの第5番（アレグロ）には、ブラームス本人による編曲は残されていません。原曲は嬰へ短調。哀しげでありながら、情熱的な曲調が印象的で

4 トリッチ・トラッチ・ポルカ

シュトラウス一家は19世紀のウィーンの舞踏会や音楽祭には欠かせない存在でした。その優雅で、洗練されたワルツは、今日でも世界中の人々に愛されています。今年、生誕200年を迎える「ワルツ王」ヨハン・シュトラウス2世（1855-1899）の音楽は、皇帝フランツ・ヨーゼフ2世（在位1848-1916）が治めたハプスブルグ大帝国の首都ウィーンの華やかさを象徴していると言えるでしょう。チェコのボヘミア地方に由来する2拍子のポルカは、19世紀半ばにヨーロッパ全土に広まりますが、民衆の踊りとしてではなく、社交ダンスとして普及しました。「トリッチ・トラッチ」とはおしゃべりのこと。べちゃくちゃと喋るようにせわしく節操なく、速いテンポで駆け抜け

6 交響曲 第9番《新世界より》から 第4楽章

チェコの作曲家ドヴォルザーク（1841-1904）の最も有名な交響曲がこの《新世界より》でしょう。ニューヨークの音楽院の院長として1892年にアメリカに渡り、1895年まで同地で過ごした彼は、黒人霊歌やインディアン音楽に触発され、故郷へのノスタルジアとともにこの交響曲を1893年に作り上げたと考えられています。初演は同年12月にニューヨークのカネギーホールで行われました。「アメリカ民謡の精神のもとに作曲した」と作曲家本人が述べているように、西欧の伝統的書法を土台として、チェコとアメリカの民族的語法を見事に融和した傑作です。ニューヨークでの初演は比類のないほどの大成功となりました。ここで言う「新世界」とは、もちろんヨーロッパから見たアメリカのことです。第4楽章（アレグロ・コン・フォーコ 小短調）では、力強い主要主題と、第3楽章までに現れた各楽章の主題が巧みに結び付けられており、最後は壮大に曲を閉じます。